

734-O17ウ



1200500751949

4

7

都會生活

織田一磨著



始



949
20

都會生活

織田一磨

購入
1914.8
帝國圖書館

アオイ書房

150

書窓版画帖十連聚

荷造板につき御協力をお願いします

物資窮乏は遂に木工品にも波及いたし、殊に輸入材及び膠著剤を要するベニア板の入手が最近愈々困難を告げましたので、荷造板を反覆使用しなければならなくなりました。就いては御手数恐縮ながら荷造板の反覆使用につき御協力をお願いいたしました存じます。御手数を少くするやう裏にこちらの宛名を印刷して貼付けてありますから、裏返して御利用下されば結構です。但し、今回公布の新らしい郵便規定により差出し人の住所と名前を必ず明記する事となりましたから、その点御含みの上よろしく願ひいたします。

「書窓」正誤 第七十號（ローマ字印刷研究圖輯）第五圖（八頁）説明文中、
「アルファベットの變遷」の十字削る。 第四百十圖（九〇頁）説明文全部削る。

734
0-17



版石画自

活 生 會 都

作 磨 一 田 織

1941

刊 房 書 イ オ ア



限定二百五拾

第 42 番

201

都會の生活は、寄せては返す色彩の波浪だ。

都會の生活は、黒と金への戀慕だ。

都會の生活は、限りない食欲の連鎖だ。

都會の生活は、果しない異國趣味の映寫だ。

都會の生活は、亂舞する線の魅力だ。

都會の生活は、疲勞と刺戟の唐草文様だ。

並木風景

初夏の並木道は、これはまた涼風を想はせる。樹蔭にはトラックが息ひ、子供等が遊ぶ。こゝは安全地帯の風景である。

雨の日に、晴れた日に、夏も冬も、並木の葉が枯れて四散する秋もまた並木道は面白い。

亂れた裾を気にしながら通る女の姿態に、政信の俤を遺して、コンクリートの路面には、アパートの影を斜に染める。

近頃は、都大路に人力車が復活し、田舎の驛路には、ホロ馬車の喇叭が響く。世は再び清親の版画に逆轉のかたちだ。

和洋、新舊の生活を兼備した風景は、現代独自の美観でなければならぬ。我國風俗史の上からみれば、最も混交した時代として特筆する価値があると思ふ。



喫茶店

銀ブラの歸りに、道頓堀の散歩に、一杯のアイスコーヒーをのむ樂しみは、都會生活者に殘された最も安價な、最も明朗な慰樂として許されてゐる。

此處では、登山のプランがたてられ、音樂會の招待が約束され、次の散歩の話しがまとまる。喫茶店の卓上には様々な善い種子が棄てられてある。これをだれても自由に、持つて歸られる。この恩恵に浴すものは、都會の若者に限られる。

銀のやうなサンデリアの光り、帚木の逆立したやうな南國の植物。黒い洋装にパーマネットのお姐ちゃん。サービスの良くないのも、テクニクの内と思ふ可して、決して一人の爲に出來てゐる店ではないのだ。都會生活者に、すこしでも趣味といふものを殘して呉れてゐると感謝しなくてはいけない。

それよりも、一杯のコーヒーを最も效果的にのみほす術を、練磨しなくてはいけない。



河岸の雨

「趣味ある雨は都會に降る」といつたらば、叱られるかも知れないが、山岳の雨は恐ろしい。原野の雨はつまらない。田舎の雨は淋しい。

都會の雨は最も人情味に富んでゐる。傘をさした人達が行く街の夕暮。絃歌渡る河岸の夜雨。さては、窓邊にやるせなくふる春の雨の情趣は、江戸趣味だと一概に放棄するには、まだ惜しい時代かと思ふ。

近頃、街には油紙に包まれて、晴雨兼用をもつた婦人を見受けるが、まだまだ唐傘をさして和服を着た女も多いのだし、雨の日は殊更、浮世繪の女に近い姿を観せて呉れるのだから、確かに江戸趣味は生きてゐる。

昭和の時代は、日が浅く、雨が降るほどに、整備されてゐない。



舞 妓

工藝美術化された女性といふものは、都會には珍らしくないが、京の舞妓ほど徹底完成された工藝化は、まだ一般にはみられない。

それだけに、美術品化された舞妓に、特に個性といふものをみとめられない。

桃山時代の裝飾画を背影として、其前に座を占めた舞妓の美といふものは、古典的だが日本獨特の美しくさで、これを西歐のものにくらべることができない。世間の人々は、日本人の才能が工藝美術に現れる特質に就て、もつと深く研究して欲しいと思ふ可きである。

女性の工藝美術化が、特に美しくしとか、美しくないとかの問題は、とりも直さず純正美術と、工藝美術の價值問題と同様、容易に解決され得ないと思ふ。この問題は、また別の問題でもあるから、暫く除外するとしても、日本人の工藝品に對してもつところの、特殊な才能といふものは、我々の生活とは最も密接なものであるから、充分の考究を必要とする。



1941

寺院の門

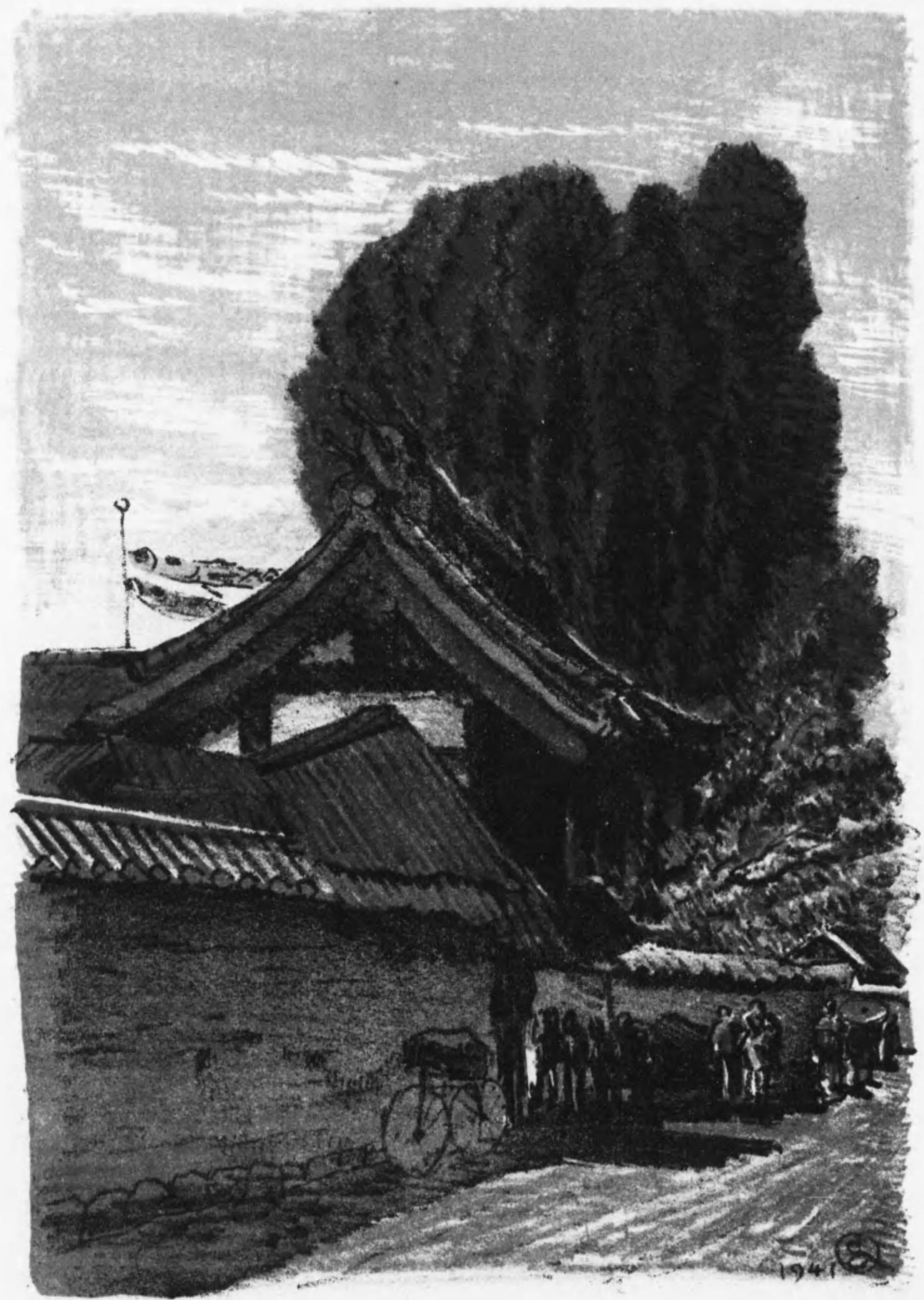
五月のぼりが建つてゐる。初夏の陽は、さんさんとポプラの樹の若葉を照らしてゐる。

古びた寺院の山門は、破損したまゝに、土壁と共に遺されてゐる。この寺の所在地が、市街の中心に寄つてゐるので、多くの人々は、この門を通路にして、繁華な中心地に用達に行く。街の女房連は、子供を連れて、寺の境内を通り過ぎる。

境内には、三重の塔もあるし、大楠もある。本堂も相當に古びてゐて、雅趣もあるが、それよりも、名物の餅を賣つてゐる店の前は、甘味に集まる人の群がいつも絶えない。

近來は、餅の値も上り、サービスも荒くなつたのに、それでも、餅は豊富に賣れてゐる。

この都市には、狩野永徳の名画もあるし、歴史で名高い人達の墓もある。私はそれ等よりも、オランダ焼を模したインチキ焼を尋ねて、便宜上、寺の山門を通りぬける。

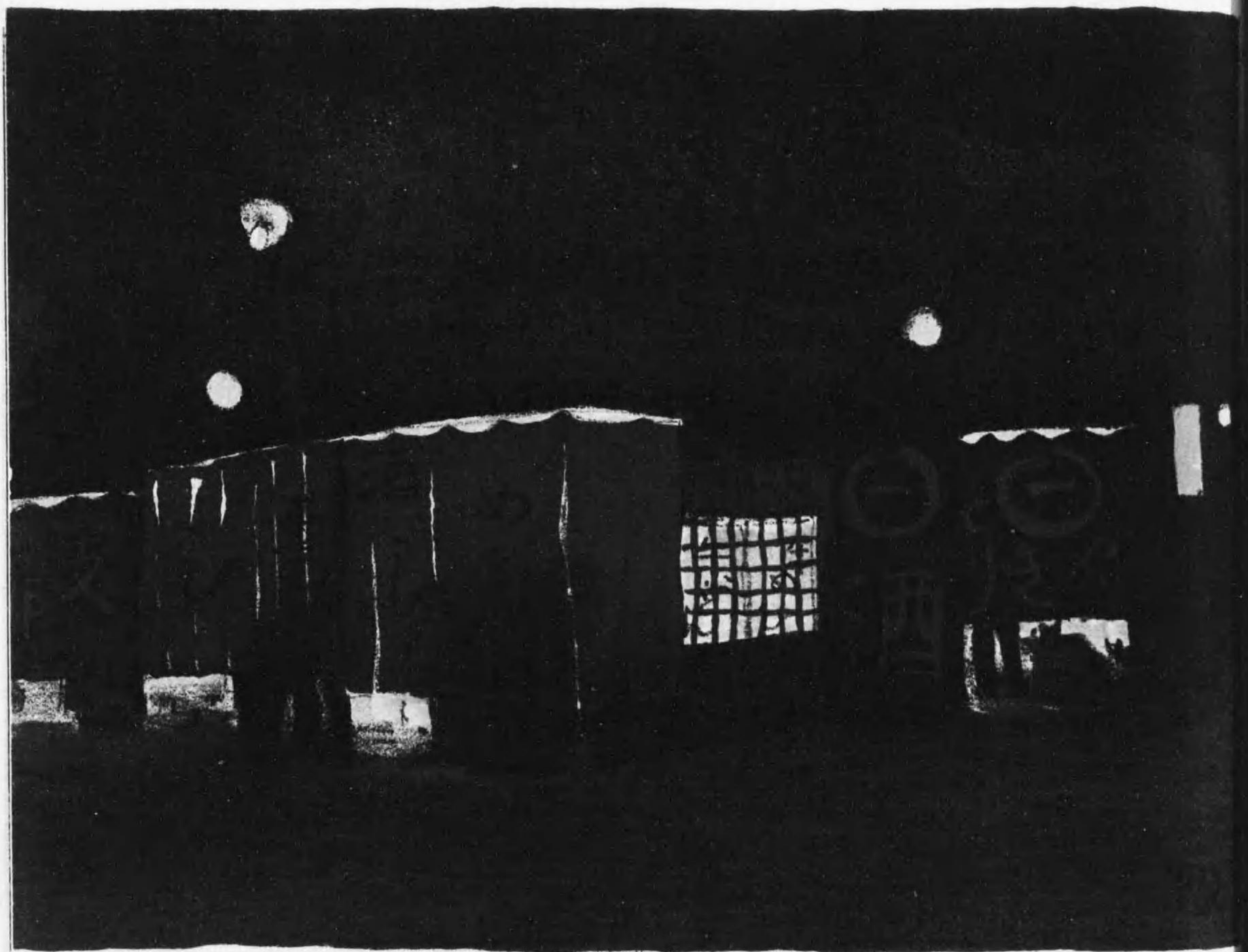


屋台店

都會はひるの務めから解放されて、夜の休息に入る時分になると、毎晩の如く屋台店が、特異の香りを漂はせる。同時に都會の食慾は、だんだん變態的に、非常識的にと傾斜して来る。

下手もの好みの街の人は、これを通と心得て、屋台店の暖簾に首を突込んで、焼とり、すし、牛めし、天ぷら、支那そば、おでん等の立食に、一日の慰樂を求める。尤も近來は時間とか、その他の制限を受けて、以前のやうにてたためはやれないが、それでも、都會生活者にとつて立食の味は忘れられない魅力でもある。

この趣味は、だれでもといふのではない。江戸ッ兒的の通人型に限るもので、歌舞伎の立見、遊女屋の素見とかいふものと、一脈の關聯があるものと思ふ。江戸生活の名残に屬す可きものと解したい。品行方正とか、謹嚴とか評價され可き種類とは反對で、むしろデカダンの趣味である。

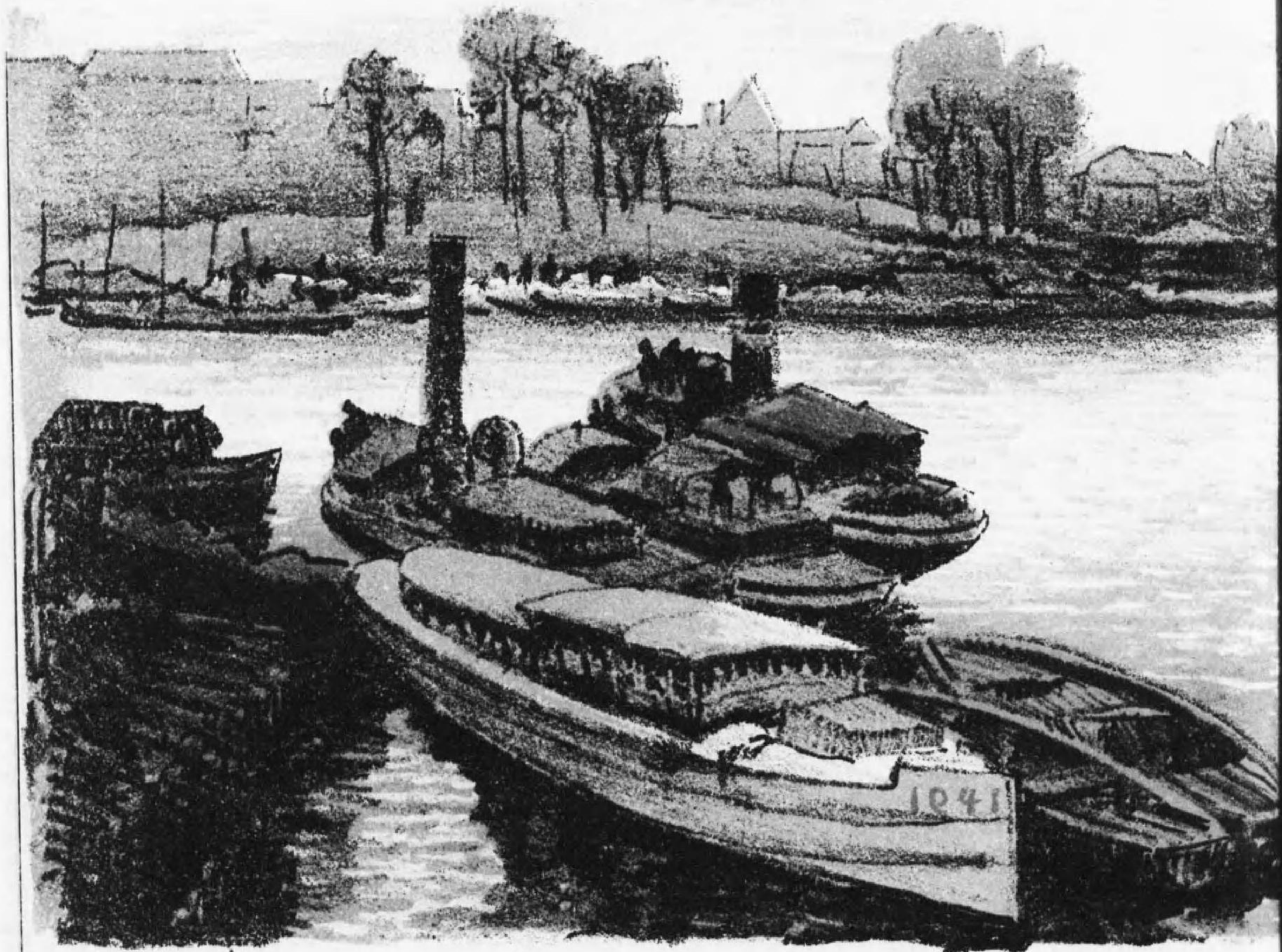


河 船

大都市に限らず、地方の都市でも、その市街を流れる河川といふものは、その都會にとつて無くてならぬ要素である。ロンドンのテムズ河、パリのセーヌ河、皆無くてはならぬ都會條件の重要な項目である。

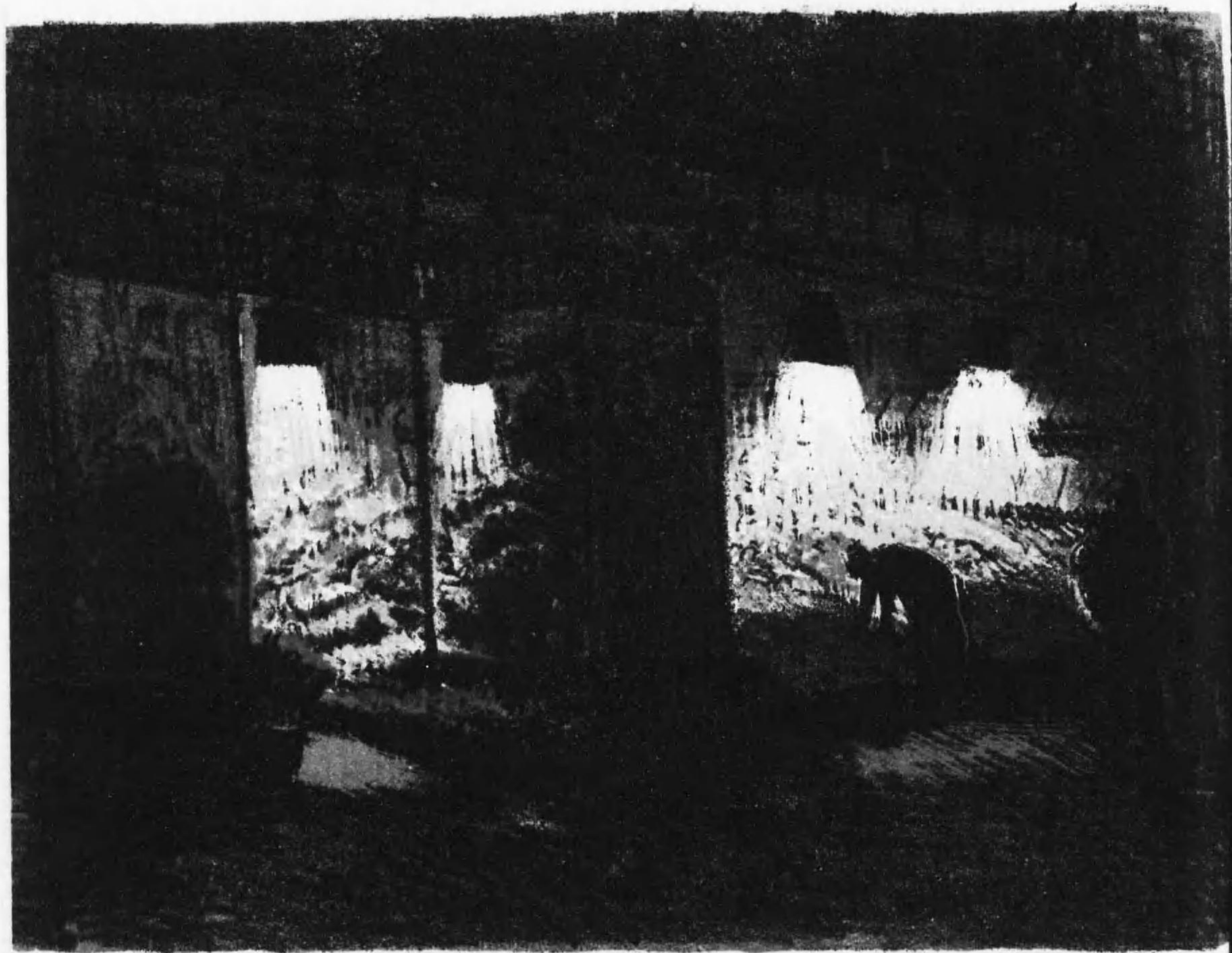
それ等河川の兩岸に建てられた建造物、橋梁、船舶等が集まつて、河岸の美觀といふものを除外すると、残るものは街路風景で、これだけでは誠に貧弱で心細い。北齋の隅田川、歌麿の兩國川開き、浮世繪の題材は限りもなく多く、河川の生活から取材されてゐる。其他ホイスラーの銀と青の夜景にしる、すべて河岸獨特の美を表現してゐる。

都會藝術といふものは、概して河川藝術たるの面影を現してゐる。これは美術のみではなく、文學に於てもその傾きがみられる。殊に江戸文學、江戸繪画にあつては、河川生活は最大の題材であつたと思ふ。



警戒管制

非常管制解除のサイレンが、街々に響き渡る。燈火は再び美しくしい光彩をはなつ。人々は閉された窓が明けられたやうに、一種の安心に似たものを覚える。黒い紙片に半分包まれた燈火は、外に暗く内に明るい。店頭の商品は、爲に思はぬ美しくしきになる。警戒管制中は、一時的ではあるが、現代市街に、古典的の色調を呈する。黒から黄色、白に移る様々な色と光りの階調は、あだかも、バッハの交響樂をきく如く、レンブラントの繪をみる如き美しくしきをもつて、飾られる。此時、斷續して鳴るサイレンは、再び美の幻想を消して、暗黒の世界へつき落す。最早レンブラントは跡方もない。我々は、月の夜空に浮ぶ建築物の影繪を観る。



雪景

朝から曇つてゐた空は、いとも靜かに雪になつた。白い無數の斷片は、不思議な舞踊を演じながら、降つて来る。次から次に、果しもなく落下して来る有様は、恐ろしいやうな、美しいやうな落下傘部隊だ。たちまち、家々の屋根から、道路から、窓邊に置いた鉢植の上にも積つて、一面に眞白に變る。黒と白、これは版画的な風景でもあるし、近代戦争の一場面にも似てゐる。

都會は刻々雪に包まれつゝある。人達は冷凍魚の肌を連想しながら、沈黙して、居室の炬燵を旺んにする。寒氣は更に激しくなる。冷蔵庫の裡に生活すると思へば間違ひないと痛感する。何時となしに日は暮れて、四邊は暗くなつてゐた。

家々の燈火は今更のやうに美しい。青白い街々には、支那そば屋のチャラメルが、廢頽した國の哀音を散らばせて通る。



歌劇見物

刺戟の強いオーケストラの高潮した調子に何事かと驚かされる。見物は夢中になって、一座の花形女優の出現を待つ。藤娘に扮した多勢の女達は、舞台一面に立並んで石屋の店頭に置かれた仕入もの、石燈籠のやうに、裾を引いて、赤い蹴出しの下からは、白い素足をのぞかせて、身うごきもしないで立ちならんでゐる。

天井からは、仕掛けもの、藤のつるに乗つた女が、何人も降りて来る。今を盛りと咲き亂れた造花の藤は、ポロ綿がはしてある如くに、ポロポロと下つて、綿羊の毛を想はしむる。やがて、管絃樂は、靜かにゆるやかに樂曲を奏し始める。

此時、花道には一齊に強い水色のライトが集中されて、觀衆が期待した一座のスターが、いとも優しい手振りで舞ひながら現れて来る。その有様は傳へ聞く、女護ヶ島の春の景色か、天國の花園に舞ふ蝶の姿かとも思はしむる。實は、それほど魅力的でもないが、正に春風ポロを靡かす体の有様である。



活生會都 版石画自

次 目

十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	表
圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	紙
歌	雪	警	河	屋	寺	舞	河	喫	並	五
劇	景	戒	船	台	院	妓	岸	茶	木	本
見		管		店	の		の	店	風	の
物		制			門		雨		景	柳

949
201

製本控

949 函	20 號	年	月	日
都會生活				
				冊
備考				

都會生活

アオイ書房十週年記念
書窓版画帖十連聚其一

作者 織田 一磨

刊者 志茂 太郎

印行 小柴 錦侍

發行 アオイ書房

東京市中野區新井町五九四番地
日本出版文化協會員一〇一〇〇八番
配給元 日本出版配給株式會社

昭和十六年九月二十五日印刷
昭和十六年九月三十日發行 領價五圓

949
201



終